

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																										
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866																																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																										
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																									
文化・教養	専門課程	マンガデザイン学科マンガ専攻	平成25年文部科学省告示 代二号																																										
学科の目的	専門的な技術や知識の習得と共にビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成をはかり、社会人としての常識と行動力を養う。																																												
認定年月日	平成26年03月31日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
2年	昼間	1,848時間	168時間	0時間	1,680時間	0時間	0時間																																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																								
140人の内数	53人	0人	4人	6人	10人																																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)																																									
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納																																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)		課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																																									
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) グラフィカ、エイティング 他 ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>25</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>7</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>7</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>28</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 漫画家デビューになることを目的とした専攻になります。 (平成28年度卒業生に関する 平成29年5月1日時点の情報)		■卒業生数	25	人	■就職希望者数	7	人	■就職者数	7	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合				28	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③														
■卒業生数	25	人																																											
■就職希望者数	7	人																																											
■就職者数	7	人																																											
■就職率	100	%																																											
■卒業者に占める就職者の割合																																													
	28	%																																											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																										
ビジネス能力検定	③																																												
中途退学 の現状	■中途退学者 7 名 平成28年5月1日時点において、在学者57名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者50名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等		■中退率 12%																																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																												
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/manga/																																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

マンガデザイン学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、作品発表・デビューに向けた作品制作 3、作品制作に向けた打ち合わせ及びスケジュール管理

4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成

上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報意見を十分に活用し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
久保 俊哉	インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC) チーフコーディネーター	1年更新	③
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	①
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学校長		
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		
松永 容治	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(前期、後期予定)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30

第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30

第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30

第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00

第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00

第7回 平成28年12月16日 12:35～12:55

第8回 平成29年5月25日 19:00～19:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制 2、前後期・二期制 3、1年次進級試験 4、2年次卒業制作 5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ、実技指導、作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする。	アニメーター・デザイナー 中村 義則
キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習	マンガ家 影井 春香
専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う。	マンガ家 檜崎 愛美

卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習	マンガ家 影井 春香 マンガ家 檜崎 愛美

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連企業の担当者とともに、関連団体や関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集、現場の最新動向を吸収し教員の資質の向上を図る

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特徴は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法: ホームページ 公表時期: 平成29年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○	○		
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○	○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1前	68	4			○	○	○		
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○	○		
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○	○		
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1前	34	2			○	○	○		
	○		専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1前	34	2			○	○	○	○	
	○		専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1前	34	2			○	○	○	○	
	○		専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1前	34	2			○	○	○	○	
	○		専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1前	34	2			○	○	○	○	
合計				13科目		476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			色彩構成	色彩に関する基本的な知識から、色彩の歴史、その配色の基本的な考え方を学ぶ。	1後	16	1	○			○			
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	16	1	○			○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1後	48	3			○	○		○	
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1後	16	1			○	○			○
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			進級制作	1年間の集大成という意味と、1年間のスキル修得のチェックポイントとしての意味を持つ、各科目の制作実習。	1後	64	4			○	○			○
○			専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1後	32	2			○	○			○
○			専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1後	32	2			○				○
○			専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
合計						14科目	448単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○		△	○		○	○
○			就職対策	就職に向けての企業訪問、説明会・応募・受験・面接など就職活動を実践する。就職活動用の個人作品ファイルも併せて制作する。	2前	34	2	○			○		○	
○			ビジュアル表現Ⅱ	業界で必要とされるデザインワークから、幅広い表現を学び、作品制作にかかす。	2前	34	2			○	○			○
○			デッサン	デザインするために必要な描写力を反復練習で習得し、幅広い表現ができるように学習。	2前	34	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅡ	デザインワークにおける、パソコンの基礎と応用を学習し、イラストレーター、フォトショップを使用し、様々なデザイン成果品を制作、学習してゆく。	2前	34	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅢ	マンガ、イラストの総合的な創作作法実習をおこなう。	2前	34	2			○	○			○
○			パースⅡ	遠近法(パース)の表現・演出方法の応用と幅広い表現方法の習得。	2前	34	2			○	○			○
○			キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻テクニックⅢ	コマ割り表現に必要な説得力のある空間処理方法や表現方法の制作実習。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻テクニックⅣ	マンガ表現の総合的な仕上げ、テクニックの応用を作品制作を通し学ぶ。	2前	34	2			○	○			○
	○		専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う。	2前	68	4			○	○			○
	○		専攻制作Ⅳ	マンガの投稿、持ちこみを前提とした、プロット、ストーリー、キャラクター等の創作作法実習。	2前	68	4			○	○			○
合計			12科目		476単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分 2期
	1学期の授業期間 17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (マンガ専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習。	2後	448	28	△	○	○			○	○	○
合計					1科目	448単位時間 (28単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																										
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866																																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																										
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																									
文化・教養	専門課程	マンガデザイン学科コミックイラスト専攻	平成25年文部科学省告示 代二号																																										
学科の目的	専門的な技術や知識の習得と共にビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成をはかり、社会人としての常識と行動力を養う。																																												
認定年月日	平成26年03月31日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
2年	昼間	1,848時間	168時間	0時間	1,680時間	0時間	0時間																																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																								
140人の内数	34人	0人	4人	6人	10人																																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)																																									
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納																																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)		課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																																									
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 中央バス札幌営業所 他 ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 <table border="1"> <tr><td>■卒業生数</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業生に占める就職者の割合</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>33</td><td>%</td></tr> </table> ■その他 (平成28年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		■卒業生数	15	人	■就職希望者数	5	人	■就職者数	5	人	■就職率	100	%	■卒業生に占める就職者の割合				33	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③														
■卒業生数	15	人																																											
■就職希望者数	5	人																																											
■就職者数	5	人																																											
■就職率	100	%																																											
■卒業生に占める就職者の割合																																													
	33	%																																											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																										
ビジネス能力検定	③																																												
中途退学の 現状	■中途退学者 4 名 平成28年5月1日時点において、在学者35名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者31名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等		■中退率 11%																																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																												
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/manga/																																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

マンガデザイン学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、作品発表・デビューに向けた作品制作 3、作品制作に向けた打ち合わせ及びスケジュール管理

4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成

上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報意見を十分に活用し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
久保 俊哉	インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC) チーフコーディネーター	1年更新	③
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	①
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学校長		
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		
松永 容治	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(前期、後期予定)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30

第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30

第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30

第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00

第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00

第7回 平成28年12月16日 12:35～12:55

第8回 平成29年5月25日 19:00～19:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制 2、前後期・二期制 3、1年次進級試験 4、2年次卒業制作 5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ、実技指導、作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
専攻テクニクⅠ	1枚表現作品を制作し、テーマに沿ったイラストを数多く作成することにより、イラストレーション制作の実作業を学ぶ	マンガ家 山内 望美
専攻テクニクⅡ	イラストにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す	マンガ家 山内 望美
デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする。	アニメーター・デザイナー 中村 義則

キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習	マンガ家 影井 春香
専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う	マンガ家 山内 望美
卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習	マンガ家 影井 春香 マンガ家 山内 望美

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連企業の担当者とともに、関連団体や関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集、現場の最新動向を吸収し教員の資質の向上を図る

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (コミックイラスト専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○	○			
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○	○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1前	68	4			○	○		○		
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○	
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
	○		専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1前	34	2			○	○			○	
	○		専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1前	34	2			○	○			○	
	○		専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
	○		専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1前	34	2			○	○		○		
合計			13科目		476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (コミックイラスト専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			色彩構成	色彩に関する基本的な知識から、色彩の歴史、その配色の基本的な考え方を学ぶ。	1後	16	1	○			○			
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	16	1	○			○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1後	48	3			○	○		○	
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1後	16	1			○	○			○
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			進級制作	1年間の集大成という意味と、1年間のスキル修得のチェックポイントとしての意味を持つ、各科目の制作実習。	1後	64	4			○	○			○
○			専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1後	32	2			○	○			○
○			専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1後	32	2			○				○
○			専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
○			専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1後	32	2			○	○			○
合計						14科目		448単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (コミックイラスト専攻) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○		△	○			○	○	
○			就職対策	就職に向けての企業訪問、説明会・応募・受験・面接など就職活動を実践する。就職活動用の個人作品ファイルも併せて制作する。	2前	34	2	○			○		○			
○			ビジュアル表現Ⅱ	業界で必要とされるデザインワークから、幅広い表現を学び、作品制作にかかす。	2前	34	2				○	○			○	
○			デッサン	デザインするために必要な描写力を反復練習で習得し、幅広い表現ができるように学習。	2前	34	2				○	○			○	
○			プレゼンテクニックⅡ	デザインワークにおける、パソコンの基礎と応用を学習し、イラストレーター、フォトショップを使用し、様々なデザイン成果品を制作、学習してゆく。	2前	34	2				○	○			○	
○			プレゼンテクニックⅢ	マンガ、イラストの総合的な創作作法実習をおこなう。	2前	34	2				○	○			○	
○			パースⅡ	遠近法(パース)の表現・演出方法の応用と幅広い表現方法の習得。	2前	34	2				○	○			○	
○			キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習。	2前	34	2				○	○			○	○
	○		専攻テクニックⅢ	コマ割り表現に必要な説得力のある空間処理方法や表現方法の制作実習。	2前	34	2				○	○			○	
	○		専攻テクニックⅣ	マンガ表現の総合的な仕上げ、テクニックの応用を作品制作を通し学ぶ。	2前	34	2				○	○			○	
	○		専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う。	2前	68	4				○	○			○	○
	○		専攻制作Ⅳ	マンガの投稿、持ちこみを前提とした、プロット、ストーリー、キャラクター等の創作作法実習。	2前	68	4				○	○			○	
合計			12科目		476単位時間(28単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マンガデザイン学科) (コミックイラスト専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習。	2後	448	28	△	○	○			○	○	○
合計				1科目				448単位時間 (28単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																										
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866																																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																										
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																																										
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																									
文化・教養	専門課程	アニメーションデザイン学科	平成25年文部科学省告示 代二号																																										
学科の目的	専門的な技術や知識の習得と共にビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成をはかり、社会人としての常識と行動力を養う。																																												
認定年月日	平成26年03月31日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
2年	昼間	1,848時間	168時間	0時間	1,680時間	0時間	0時間																																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																								
60人	40人	0人	3人	6人	9人																																								
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)																																									
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納																																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)		課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																																									
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) きしだStudioBACU、ディオメディア、横浜アニメーションラボ、スタジオロード 他 ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>16</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>15</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>15</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業生に占める就職者の割合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>94</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 (平成28年度卒業生に関する 平成29年5月1日時点の情報)		■卒業生数	16	人	■就職希望者数	15	人	■就職者数	15	人	■就職率	100	%	■卒業生に占める就職者の割合				94	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③														
■卒業生数	16	人																																											
■就職希望者数	15	人																																											
■就職者数	15	人																																											
■就職率	100	%																																											
■卒業生に占める就職者の割合																																													
	94	%																																											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																										
ビジネス能力検定	③																																												
中途退学の 現状	■中途退学者 2 名 平成28年5月1日時点において、在学者35名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者33名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等		■中退率 6%																																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																												
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/anime/																																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

アニメーションデザイン学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、作品発表・就職に向けた作品制作 3、作品制作に向けた打ち合わせ及びスケジュール管理 4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成

上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報意見を十分に活用し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
久保 俊哉	インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC) チーフコーディネーター	1年更新	③
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	①
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学校長		
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		
松永 容治	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(前期、後期予定)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30

第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30

第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30

第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00

第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00

第7回 平成28年12月16日 12:55～13:15

第8回 平成29年5月25日 19:30～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制 2、前後期・二期制 3、1年次進級試験 4、2年次卒業制作 5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ、実技指導、作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	株式会社 グラフィニカ CGデザイナー 田熊 健
ビジュアル表現Ⅱ	アニメーション・映像制作における総合的な画面作りやレイアウトのチェックと実習を行う	株式会社 グラフィニカ CGデザイナー 田熊 健
卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習	株式会社 グラフィニカ CGデザイナー 田熊 健 アニメーター・デザイナー 中村 義則(犬蔵)

デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	アニメーター・デザイナー 中村 義則(犬蔵)
専攻制作Ⅰ	動画基礎(模写・クリンナップ・中割り・色トレス)を専門的に学習する	アニメーター・デザイナー 中村 義則(犬蔵)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連企業の担当者とともに、関連団体や関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集、現場の最新動向を吸収し教員の資質の向上を図る

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特徴は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アニメーションデザイン学科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○	○		
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○	○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1前	68	4			○	○	○		
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○	○		
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	○
	○		専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1前	34	2			○	○		○	
	○		専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1前	34	2			○	○		○	
	○		専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	○
	○		専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1前	34	2			○	○		○	
合計					13科目	476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アニメーションデザイン学科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			色彩構成	色彩に関する基本的な知識から、色彩の歴史、その配色の基本的な考え方を学ぶ。	1後	16	1	○			○			○		
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	16	1	○			○			○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるようにデザイン基礎を学習する。	1後	48	3			○	○			○		
○			デッサン	物・形・素材を観察し、また、空間の構成を把握し、表現する技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	
○			プレゼンテクニックⅠ	線画表現に必要な道具の基本的な使用方法と技術を学ぶ。	1後	16	1			○	○			○		
○			パースⅠ	空間処理のひとつの方法である遠近法(パース)の基本を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	
○			表現技法Ⅰ	線画表現に必要な空間処理(パース・効果線等)の基本技術を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	
○			表現技法Ⅱ	パソコンの基本を学習し、アドビ・イラストレーター・フォトショップのソフトの使用方法を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	
○			ビジュアル表現Ⅰ	モノ創りの基本となる発想力、構成力、演出力等を作品作りを行ないながら学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	○
○			進級制作	1年間の集大成という意味と、1年間のスキル修得のチェックポイントとしての意味を持つ、各科目の制作実習。	1後	64	4			○	○			○	○	
○			専攻テクニックⅠ	マンガの基礎を元に、総合的かつ、個性的な作品制作の実習。	1後	32	2			○	○			○		
○			専攻テクニックⅡ	マンガにおける表現の知識、スキルをいかし説得力のある作品制作を目指す。	1後	32	2			○				○		
○			専攻制作Ⅰ	ページ作品を制作し、テーマに沿ったストーリー制作を数多く作成することにより、マンガ制作の実作業を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	○
○			専攻制作Ⅱ	制作を通して作品の世界観を広げると共に、道具のルールと表現効果を実作業を通して学ぶ。	1後	32	2			○	○				○	
合計						14科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アニメーションデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○		△	○		○	○	
○			就職対策	就職に向けての企業訪問、説明会・応募・受験・面接など就職活動を実践する。就職活動用の個人作品ファイルも併せて制作する。	2前	34	2	○			○		○		
○			ビジュアル表現Ⅱ	業界で必要とされるデザインワークから、幅広い表現を学び、作品制作にかかす。	2前	34	2			○	○			○	○
○			デッサン	デザインするために必要な描写力を反復練習で習得し、幅広い表現ができるように学習。	2前	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテクニックⅡ	デザインワークにおける、パソコンの基礎と応用を学習し、イラストレーター、フォトショップを使用し、様々なデザイン成果品を制作、学習してゆく。	2前	34	2			○	○			○	
○			プレゼンテクニックⅢ	マンガ、イラストの総合的な創作作法実習をおこなう。	2前	34	2			○	○			○	
○			パースⅡ	遠近法(パース)の表現・演出方法の応用と幅広い表現方法の習得。	2前	34	2			○	○			○	
○			キャラクターデザイン	キャラクターの描き方や人体の基本、カラー画材を使用した、カラーイラストの制作実習。	2前	34	2			○	○			○	
○			専攻テクニックⅢ	コマ割り表現に必要な説得力のある空間処理方法や表現方法の制作実習。	2前	34	2			○	○			○	
○			専攻テクニックⅣ	マンガ表現の総合的な仕上げ、テクニックの応用を作品制作を通し学ぶ。	2前	34	2			○	○			○	
○			専攻制作Ⅲ	1年次で学んだ専攻の基礎を応用し、説得力のある作品づくりを目指すと共に、様々な表現方法を学び投稿を行う。	2前	68	4			○	○			○	
○			専攻制作Ⅳ	マンガの投稿、持ちこみを前提とした、プロット、ストーリー、キャラクター等の創作作法実習。	2前	68	4			○	○			○	
合計			12科目		476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アニメーションデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作	2年間の集大成として、そして対外的なプレゼンテーションとしての意味を持つ作品制作の実習。	2後	448	28	△	○	○			○	○	○
合計				1科目				448単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	声優学科声優専攻	平成25年文部科学省告示 代二号				
学科の目的	専門的な技術や知識の習得と共にビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成をはかり、社会人としての常識と行動力を養う。						
認定年月日	平成26年03月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,848時間	200時間	288時間	1,360時間	0時間	0時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人の内数	90人	0人	4人	6人	10人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)			
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)		課外活動	■課外活動の種類 演劇鑑賞 ■サークル活動: 無			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 登別伊達時代村、STVラジオ 他 ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 49 人 ■就職希望者数 13 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 92 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 27 % ■その他 声優デビューになることを目的とした専攻となります (平成28年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 ビジネス能力検定 ③ ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 平成28年5月1日時点において、在学者100名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者95名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等		■中退率 5 %				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)						
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/voice-actor/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

声優学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、公演発表・デビューに向けた取り組み 3、公演やオーディションに向けた打ち合わせ及びスケジュール管理 4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成
上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報意見を十分に活用し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
久保 俊哉	インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC) チーフコーディネーター	1年更新	③
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	①
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学校長		
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		
松永 容治	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(前期、後期予定)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30
- 第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30
- 第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30
- 第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00
- 第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00
- 第7回 平成28年12月16日 13:15～13:35
- 第8回 平成29年5月25日 20:00～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制 2、前後期・二期制 3、1年次進級試験 4、2年次卒業制作 5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ、実技指導、作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする	パーソナリティー 大橋 千恵
ヴォイストレーニングⅡ	歌唱トレーニングの応用編。発音の音域を広げ、演技・表現に役立てる	株式会社 サウンドープ ミュージシャン 佐竹 真一
声優レッスンⅡ	主にナレーション全般の読解訓練。CM原稿、ニュース原稿を使用し、初見でも円滑に読めるよう、訓練をする	パーソナリティー 大橋 千恵

卒業制作Ⅱ	2年間の集大成として、舞台演劇公演を行う。(他、歌唱・アフレコなど)	株式会社 サウンドープ ミュージシャン 佐竹 真一 パーソナリティ 大橋 千恵
-------	------------------------------------	---

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連企業の担当者とともに、関連団体や関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集、現場の最新動向を吸収し教員の資質の向上を図る

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育人人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育人人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか

(4)学修成果	4-1就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・消費収支計算書
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流・連携
(11)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (声優専攻) 平成29年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○		○		
○				ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○		○		
○				基礎トレーニングⅠ	正しい口の開け方で母音の発声をして、五十音を確認する。呼吸の軌道を確認し、腹式呼吸を意識した発声練習をする。	1前	34	2			○	○				○
○				基礎トレーニングⅡ	体カトレーニングで全身をほぐし、体を使った表現練習を行う。エチュードにて、感性を養う。	1前	34	2			○	○				○
○				フリートーク	軽快な口調の語りを行うための基礎訓練。ラジオ番組の生放送に出演し、フリートークを実践する。	1前	34	2			○	○				○
○				リズムトレーニングⅠ	リズムダンスをベースにした肉体の鍛錬と五感を使つての表現法を学ぶ。	1前	34	2			○	○				○
○				創作実習Ⅰ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	1前	34	2			○	○				○
○				創作実習Ⅱ	ナレーション実習にて、原稿を読む感覚を養う。言葉のメリハリや秒単位の時間を意識した読み方を習得する。	1前	34	2			○	○				○
○				ヴォイストレーニングⅠ	音感を養うための音楽トレーニング。発声方法の違いを確認し、演技・表現に役立てる。	1前	34	2			○	○				○
○				アフレコ実習Ⅰ	スタジオマナー・マイクワーク等、現場の環境に慣れるための基礎訓練。	1前	34	2			○	○				○
○				アフレコ実習Ⅱ	テレビ用のアニメ台本を使ったアフレコの基礎実習。映像とセリフのリップシンクロ技術習得と演技力を養う。	1前	34	2			○	○				○
○				演技基礎Ⅰ	詩や物語の台本を用いて、意思感情を表すセリフの表現練習。	1前	34	2			○	○				○
○				演技基礎Ⅱ	舞台用の台本などを用い、全身を使って行う演技トレーニング。主にはっきりとした表情や感情を意識した訓練。	1前	34	2			○	○				○
○				声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする。	1前	34	2			○	○				○ ○
合計					14科目			476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (声優専攻) 平成29年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	32	2	○			○		○		
○				業界研究Ⅰ	声優・俳優・演技者としての心得や専門用語、業界の基礎知識を学ぶ。	1後	32	2	○			○		○		
○				基礎トレーニングⅠ	正しい口の開け方で母音の発声をして、五十音を確認する。呼吸の軌道を確認し、腹式呼吸を意識した発声練習をする。	1後	32	2			○	○				○
○				基礎トレーニングⅡ	体力トレーニングで全身をほぐし、体を使った表現練習を行う。エチュードにて、感性を養う。	1後	32	2			○	○				○
○				フリートーク	軽快な口調の語りを行うための基礎訓練。ラジオ番組の生放送に出演し、フリートークを実践する。	1後	32	2			○	○				○
○				リズムトレーニングⅠ	リズムダンスをベースにした肉体の鍛錬と五感を使つての表現法を学ぶ。	1後	32	2			○	○				○
○				創作実習Ⅰ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	1後	32	2			○	○				○
○				創作実習Ⅱ	ナレーション実習にて、原稿を読む感覚を養う。言葉のメリハリや秒単位の時間を意識した読み方を習得する。	1後	32	2			○	○				○
○				ヴォイストレーニングⅠ	音感を養うための音楽トレーニング。発声方法の違いを確認し、演技・表現に役立てる。	1後	32	2			○	○				○
○				アフレコ実習Ⅰ	スタジオマナー・マイクワーク等、現場の環境に慣れるための基礎訓練。	1後	32	2			○	○				○
○				アフレコ実習Ⅱ	テレビ用のアニメ台本を使ったアフレコの基礎実習。映像とセリフのリップシンクロ技術習得と演技力を養う。	1後	32	2			○					○
○				演技基礎Ⅰ	詩や物語の台本を用いて、意思感情を表すセリフの表現練習。	1後	32	2			○	○				○
○				演技基礎Ⅱ	舞台用の台本などを用い、全身を使って行う演技トレーニング。主にははっきりとした表情や感情を意識した訓練。	1後	32	2			○	○				○
○				声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする。	1後	32	2			○	○				○
合計						14科目			448単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (声優専攻) 平成29年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○			○				○
○				業界研究Ⅱ	就職対策についての実習。模擬面接、模擬オーディションを行って就職活動の方法を学ぶ。	2前	34	2	○			○				○
○				応用トレーニングⅠ	舞台演劇の台本を用い、ショートシーンを作品として制作する。演技実践トレーニング。	2前	34	2			○	○				○
○				応用トレーニングⅡ	舞台演劇の制作工程全般。本読みから舞台発表まで全工程の制作実習。	2前	34	2			○	○				○
○				応用トレーニングⅢ	様々な演劇論の講義とその内容に基づいた演技実習	2前	34	2			○	○				○
○				リズムトレーニングⅡ	高度なリズムトレーニングを行い、身体表現を学ぶ。	2前	34	2			○	○				○
○				創作実習Ⅲ	プロフィールやヴォイスサンプル、自己PRを作成し、様々なメディアのオーディション対策を行う	2前	34	2			○	○				○
○				創作実習Ⅳ		2前	34	2			○	○				○
○				ヴォイストレーニングⅡ	歌唱トレーニングの応用編。発音の音域を広げ、演技・表現に役立てる。	2前	34	2			○	○				○ ○
○				アフレコ実習Ⅲ	様々なタイプのアニメ台本を使用。キャスティングも入れ替えながら、様々な役を表現する演技練習を行う。	2前	34	2			○	○				○
○				アフレコ実習Ⅳ	洋画作品のアフレコ実習。アニメキャラクターとの演技の違いを学習する。	2前	34	2			○	○				○
○				演技実習Ⅰ	朗読劇の創作。劇制作の工程をシミュレーションする実践練習。	2前	34	2			○	○				○
○				演技実習Ⅱ	古典演劇の台本を用いた演技練習。セリフの言い回しや体の使い方を細かく意識した表現練習。	2前	34	2			○	○				○
○				声優レッスンⅡ	ナレーション全般の読解訓練。CM原稿、ニュース原稿を使用し、初見でも円滑に読めるよう、訓練をする。	2前	34	2			○	○				○ ○
合計					12科目			476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (声優専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業制作 I	2年間の集大成として、舞台演劇公演を行う。(他、朗読、ダンス発表など)	2 後	288	18	○			○		○	○	
○			卒業制作 II	2年間の集大成として、舞台演劇公演を行う。(他、歌唱・アフレコなど)	2 後	160	10			○	○		○	○	○
合計				2科目				448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																				
専門学校札幌マンガ・アニメ学院	平成19年11月13日	本間 剛宏	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3-31 (電話) 011-272-2866																																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																				
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																		
文化・教養	専門課程	声優学科アニソン専攻		平成25年文部科学省告示 代二号																																			
学科の目的	専門的な技術や知識の習得と共にビジネスマナーやコミュニケーション能力の育成をはかり、社会人としての常識と行動力を養う。																																						
認定年月日	平成26年03月31日																																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																
	2年							昼間	1,848時間	200時間	288時間	1,360時間	0時間	0時間																									
単位時間																																							
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
160人の内数		14人	0人	4人	5人	9人																																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 五段階評価ABCDE(E=未習得)																																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで			卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上、単位習得85%以上、進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上、単位習得85%以上、卒業制作審査合格、学費の完納																																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導及び保護者との連携強化を行う。長期欠席者への指導等の対応、定期的な郵送による保護者連絡(年4回予定)			課外活動	■課外活動の種類 演劇鑑賞 ■サークル活動: 無																																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ■就職指導内容 就職対策授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③											<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③										
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																																		
	ビジネス能力検定	③																																					
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																				
ビジネス能力検定	③																																						
■卒業生数 12 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																				
■その他 声優デビューになることを目的とした専攻となります			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																				
(平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)																																							
中途退学の 現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成28年5月1日時点において、在学者17名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者17名(平成29年3月31日卒業生を含む)			■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 主に経済的な理由																																			
■中退防止・中退者支援のための取組 授業料の分納制度等																																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																						
当該学科の ホームページ URL	https://www.smg.ac.jp/td/voice-actor/																																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

声優学科

1、社会人としてのマナー・行動 2、公演発表・デビューに向けた取り組み 3、公演やオーディションに向けた打ち合わせ及びスケジュール管理 4、現在の流行及びターゲットの好みの研究 5、広い視野の育成
上記の教育内容をプロ(企業等)との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、プロ(企業等)の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成にあたっては、教育課程編成委員会での審議を通じ示された企業等の要請その他の情報意見を十分に活用し、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努めなければならない

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
久保 俊哉	インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC) チーフコーディネーター	1年更新	③
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	①
本間 剛宏	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学校長		
山田 淳一	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		
松永 容治	専門学校札幌マンガ・アニメ学院 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(前期、後期予定)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 13:00～13:30
- 第2回 平成26年2月6日 16:00～16:30
- 第3回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第4回 平成27年3月29日 15:30～16:30
- 第5回 平成27年12月18日 15:00～16:00
- 第6回 平成28年5月27日 12:00～13:00
- 第7回 平成28年12月16日 13:15～13:35
- 第8回 平成29年5月25日 20:00～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。1、クラス担任制 2、前後期・二期制 3、1年次進級試験 4、2年次卒業制作 5、教員マニュアル6、学習案内作成

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携で課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

教室内での打ち合わせ、実技指導、作品チェック

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ヴォーカル基礎	正しい口の開け方で母音の発声をして、五十音を確認する。呼吸の軌道を確認し、腹式呼吸を意識した発声練習をする	株式会社 サウンドープ ミュージシャン 佐竹 真一
Jポップ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	株式会社 サウンドープ ミュージシャン 佐竹 真一
声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする	パーソナリティー 大橋 千恵

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連企業の担当者とともに、関連団体や関連企業への現場訪問を通して、業界の情報収集、現場の最新動向を吸収し教員の資質の向上を図る

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加
- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修に参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことと了承。今後は、自己評価の課題を踏まえ、今後の改善等を計画的に検討し改善等を計り、各校・各学科に活用していくこととする

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	1年更新	企業等委員
原 大介	ユアワークス 代表	1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(公表方法:ホームページ 公表時期:平成29年11月中)

<https://www.smg.ac.jp/td/wp-content/uploads/2017/09/hyoka.pdf>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://www.smg.ac.jp/td/information/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (アニソン専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	言葉や文章によるバーバルコミュニケーションと視覚で伝達するビジュアルコミュニケーションの有り方の違い等、視覚を主とする伝達の方法論を学ぶ。	1前	34	2	○			○			
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1前	34	2	○			○			
	○		ヴォーカル基礎	正しい口の開け方で母音の発声をして、五十音を確認する。呼吸の軌道を確認し、腹式呼吸を意識した発声練習をする。	1前	68	4			○	○			○
	○		アニソン	自分の出せる範囲の音域を確認し、さらに広げるトレーニング。様々な歌を歌い上げる。	1前	68	4			○	○			○
○			リズムトレーニングⅠ	リズムダンスをベースにした肉体の鍛錬と五感を使つての表現法を学ぶ。	1前	34	2			○	○			○
	○		Jポップ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	1前	34	2			○	○			○
○			ヴォイストレーニングⅠ	音感を養うための音楽トレーニング。発声方法の違いを確認し、演技・表現に役立てる。	1前	34	2			○	○			○
	○		アフレコ実習Ⅰ	スタジオマナー・マイクワーク等、現場の環境に慣れるための基礎訓練。	1前	34	2			○	○			○
	○		アフレコ実習Ⅱ	テレビ用のアニメ台本を使ったアフレコの基礎実習。映像とセリフのリップシンクロ技術習得と演技力を養う。	1前	34	2			○	○			○
	○		演技基礎Ⅰ	詩や物語の台本を用いて、意思感情を表すセリフの表現練習。	1前	34	2			○	○			○
	○		演技基礎Ⅱ	舞台用の台本などを用い、全身を使って行う演技トレーニング。主にはっきりとした表情や感情を意識した訓練。	1前	34	2			○	○			○
	○		声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする。	1前	34	2			○	○			○ ○
合計			12科目			476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90%	単位修得率85%	卒業制作審査合格	学費の完納	1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (アニソン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャルコミュニケーション	就職に向けての活動基本動作から、マナー・ルール、企業研究、資料請求の方法などを学び、社会人として必要な一般教養を身に付ける。	1後	32	2	○			○		○		
○			業界研究Ⅰ	声優・俳優・演技者としての心得や専門用語、業界の基礎知識を学ぶ。	1後	32	2	○			○		○		
	○		ヴォーカル基礎	正しい口の開け方で母音の発声をして、五十音を確認する。呼吸の軌道を確認し、腹式呼吸を意識した発声練習をする。	1後	64	4			○	○			○	○
	○		アニソン	自分の出せる範囲の音域を確認し、さらに広げるトレーニング。様々な歌を歌い上げる。	1後	64	4			○	○			○	
	○		Jポップ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	1後	32	2			○	○			○	
○			リズムトレーニングⅠ	リズムダンスをベースにした肉体の鍛錬と五感を使つての表現法を学ぶ。	1後	32	2			○	○			○	
○			ヴォイストレーニングⅠ	音感を養うための音楽トレーニング。発声方法の違いを確認し、演技・表現に役立てる。	1後	32	2			○	○			○	
○			アフレコ実習Ⅰ	スタジオマナー・マイクワーク等、現場の環境に慣れるための基礎訓練。	1後	32	2			○	○			○	
○			アフレコ実習Ⅱ	テレビ用のアニメ台本を使ったアフレコの基礎実習。映像とセリフのリップシンクロ技術習得と演技力を養う。	1後	32	2			○	○			○	
○			演技基礎Ⅰ	詩や物語の台本を用いて、意思感情を表すセリフの表現練習。	1後	32	2			○	○			○	
○			演技基礎Ⅱ	舞台用の台本などを用い、全身を使って行う演技トレーニング。主にはっきりとした表情や感情を意識した訓練。	1後	32	2			○				○	
○			声優レッスンⅠ	言葉で文章を正確に語るための基礎訓練。アクセント・イントネーションを確認し、標準語をマスターする。	1後	32	2			○	○			○	○
合計			14科目			448単位時間(28単位)									

卒業要件及び履修方法				授業期間等		
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分		2期
				1学期の授業期間		17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (アニソン専攻) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	様々な映像作品等を通し、デザインに対するアプローチやプロセスを学び、視野を広げ発想を豊かにする	2前	34	2	○			○			
○			業界研究Ⅱ	就職対策についての実習。模擬面接、模擬オーディションを行って就職活動の方法を学ぶ。	2前	34	2	○			○			
	○		アフレコ実習Ⅲ	様々なタイプのアニメ台本を使用。キャスティングも入れ替えながら、様々な役を表現する演技練習を行う。	2前	34	2			○	○		○	
	○		アフレコ実習Ⅳ	洋画作品のアフレコ実習。アニメキャラクターとの演技の違いを学習する。	2前	34	2			○	○		○	
○			演技実習Ⅰ	朗読劇の創作。劇制作の工程をシミュレーションする実践練習。	2前	34	2			○	○		○	
○			演技実習Ⅱ	古典演劇の台本を用いた演技練習。セリフの言い回しや体の使い方を細かく意識した表現練習。	2前	34	2			○	○		○	
	○		声優レッスンⅡ	主にナレーション全般の読解訓練。CM原稿、ニュース原稿を使用し、初見でも円滑に読めるよう、訓練をする。	2前	34	2			○	○		○	
○			リズムトレーニングⅡ	高度なリズムトレーニングを行い、身体表現を学ぶ。	2前	34	2			○	○		○	
	○		Jポップ	ラジオドラマ台本(シナリオ)の書き方をマスターする。	2前	34	2			○	○		○	○
○			ヴォイストレーニングⅡ	歌唱トレーニングの応用編。発音の音域を広げ、演技・表現に役立てる。	2前	34	2			○	○		○	
	○		アニソン	軽快な口調の語りを行うための基礎訓練。ラジオ番組の生放送に出演し、フリートークを実践する。	2前	68	4			○	○		○	
	○		ヴォーカルレッスン	音感を養うための音楽トレーニング。発声方法の違いを確認し、演技・表現に役立てる。	2前	68	4			○	○		○	
合計					12科目		476単位時間(28単位)							

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程声優学科) (アニソン専攻) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作 I	2年間の集大成として、舞台演劇公演を行う。(他、朗読、ダンス発表など)	2後	288	18	○			○	○			
○			卒業制作 II	2年間の集大成として、舞台演劇公演を行う。(他、歌唱・アフレコなど)	2後	160	10			○	○	○	○		
合計				2科目				448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90% 単位修得率85% 卒業制作審査合格 学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。